



## 工業会が先駆的な道を

### 開くことを期待

日本廃棄物団体連合会

会長 小林 康彦

本日は第47回日本環境衛生施設工業会総会で時代を乗り切る協議をされ、こうして懇親会に呼んでいただきましたこと、お礼を申し上げます。ただいまご紹介がございましたように工業会を含め、廃棄物関係18団体で日本廃棄物団体連合会という組織を作っております。

ただいま南川部長からふわっとした形でお話がございましたけれども、最近廃棄物処理施設の補助金を大幅に減らそう、減らすばかりでなく廃止をしたらどうかと、こんな声もちらほら聞こえてきます。廃棄物処理施設というのは補助金があってようやくにして整備が進んできた。補助制度の支えがなくなりますと、市町村長の施策の中では難しいものは後回し、何とか使えるものは黒い煙が出て多少汚水が広がってもだましまし使おうと、こういうところに位置付けられる心配がございます。そこで、先週廃団連といたしまして廃棄物処理施設の国庫補助の存続と拡充に関係方面にお願いして参った次第でございます。

私が属しております日本環境衛生センター、工業会の皆様とご一緒に仕事をさせていただき、ご支援もいただいております。廃棄物に関しましては、平成3年の廃棄物処理法の改正を契機といたしまして、その後大きな時代の流れに入り込んだところでございます。先般成立いたしました廃棄物処理法の改正等、現在もその大きな流れは続いており、新しい動きに移りつつあるわけでございます。

リサイクル関係の新しいシステム、新しい施策

が次々に打ち出される中、事件、事故も次々に発生をしております。そのたびに排出事業者の責任の強化、あるいは規制の強化という施策が打たれてきているわけでございますが、現在におきましても不適切な処理、あるいは不法投棄等は社会問題として表にあらわれているわけでございます。不法投棄も年々悪質化し、あるいは硫酸ピッチに見られますように犯罪行為の後始末を廃棄物でせねばならない、非常に深刻な状況のように承っております。

こうした不適正な事例をなくすためには、適切な施設整備とその運営管理が基盤として不可欠なものでございます。施設整備も今までの焼却して埋めるという路線にリサイクルのさまざまな手法が組み合わされ、そしてただいま会長からお話がございましたように、新しい技術開発、新しい技術の適用という面も開けてきたわけでございます。

ぜひ工業会の皆さん方も英知を結集され、更に最近起こっております処理施設の事故、これに対しても工業会として検討すべき課題が多いのであらうと思っておりますけれども、関係団体ともども時代の要請にこたえまして複雑化しておりますシステム、技術をぜひ先駆的に道を開き、その促進のためにお力を出していただければと思う次第でございます。

今後の工業会の発展を祈念いたしまして、ごあいさついたします。どうもありがとうございます。